

科目名	心と身体B		科目コード	G52007	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	佐々木 正晴			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	心の活動という現象を脳という物質が支えている。近年、光学技術の進展により脳内機構を探索することが可能になり、心と脳の関連性を捉えようとする研究が飛躍的に増大している。しかし両者の関連性が十分に解明されたとはいえない。本講では、見る活動と近年の研究成果を見ながら、見る活動と脳の関連性について残された課題を探る									
到達 目標	1. 実験の方法や結果を予測する力をつけること 2. 見る活動と脳の活動の関係性を捉えること									
<b>授 業 計 画</b>										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)					備 考		
第1回	脳の構造と働き：医学／生理学領域		医学的観点から脳の構造と働きを学ぶ							
第2回	脳損傷：大脳認知地図の状況		脳損傷者の大脳認知地図の臨床例から、脳と心の関係性を探る							
第3回	脳機能と動物実験		人に対してはできない脳を操作する実験が動物で行われている							
第4回	脳に損傷を受けたひとたち		一定の生活歴を経てから脳に損傷を受けたひとたちの状況を紹介する							
第5回	見る活動：静止網膜像の実験		見る活動を支える生理学的基礎：静止網膜像の実験							
第6回	見る活動：視覚と触覚の実験		見る活動と触る活動に乖離が生じると：視覚と触覚の実験							
第7回	脳と心の関係：両者間の優位性		これまでの総括し、脳と心の関係性／優位性について考える							
第8回	脳に損傷を受けた人たちの機能形成		脳が壊れても機能は形成されるRewinの臨床報告。Sadatoの実験報告							
第9回	脳と心の関係：両者間の優位性		改めて、脳と心の関係性／優位性について考える							
第10回	こどもにおける見る活動の障害と形成		見る活動：方向弁別と形の知覚実験							
第11回	脳損傷者における見る活動の障害と形成		脳損傷実験：Yagiの実験報告							
第12回	見る活動の障害と形成		これまでの事例から見る活動の障害と形成について総合的に考える							
第13回	行動障害状況の打開		行動的障害状況に応じた機能形成の原理を探る							
第14回	脳と心の関係性の結論		脳と心の関係性／優位性について総合的に考える							
第15回	総括		心の活動について受講生ひとり一人が絵を描く							
評価 方法 及び 評価 基準	平常点評価50%、レポート50%。毎回の授業で小レポートを課する。 小レポートの内容や授業中の受講態度等を総合して平常点とする。翌週提出する大きなレポートは、3回。 テーマに応じて論理的に構成されているかを評価する									
教材 教科書 参考書	なし。プリント配布									
留意点	心を込めてレポートを書くこと									